

体型及び身体計測についてはシルエッター，モアレ，スライディング・ゲージ等機械科学の進歩を駆使しての研究が重ねられ，充分の把握ができていながらもかかわらず，それらの体型，寸法をパターンメイキングに活かされ得ないことは，測定部位，計測が衣服設計図の展開目的に不適合であることを示すもので，体型は高丈，回りサイズをどのように細密に測定したとしても，寸法によって体型を知ることはできません。太い，細い，背が高い，低い表現だけで，シルエット把握には全く通じません。それは曲面立体を構成する部位が測定から外されていることであります。身体の立体，動きを平面展開するための測定部位の設定は，人体のキネジオロジイ，パターンメイキング，被験者の三者のコミュニケーションの繰り返しによって得ることが必要と考えられます。今回三者の立場から得たものを私見として報告します。

方法 身体のセクション部位，運動による身体の伸展，収縮，偏位，移動の考察を通じて測定部位を定めます。

結果 箱の中に箱があり，また箱があるというようなグレーディング体型ではなく，人体体型を指紋や血液型のように分類づける要請の中に応えるための新たな測定部位，計測，その平面立体の展開原型の効果は，次の第2報によって報告します。なお，これらの測定部位がシルエッター，モアレ等の機械科学でたやすく正確に読み取れ，衣服設計図に役立つようになることを希っております。